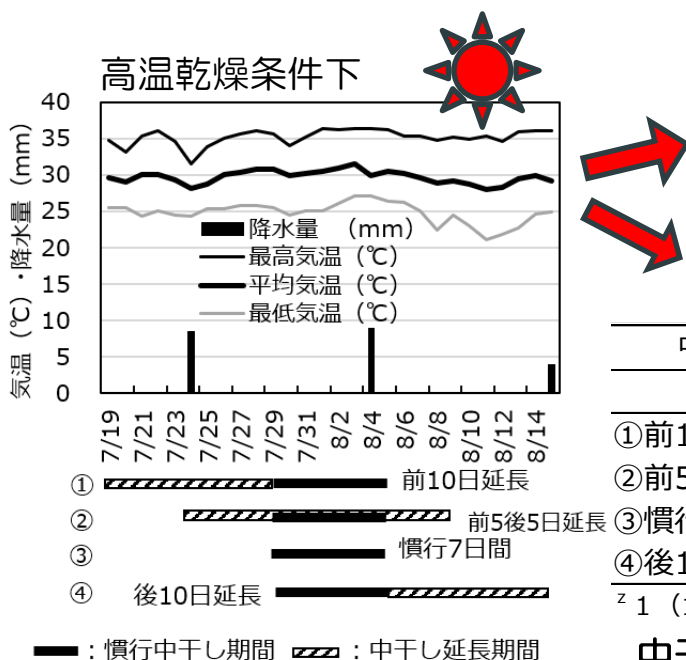


水稲「アケボノ」において中干し期間を延長しても、 収量、品質は維持されます！

中干し期間中の気象



中干し延長区の亀裂の様子



アケボノの収量品質

中干し期間 区	日数	稈長 cm	倒伏 0-4	精玄米重 kg/10a	慣行比 %	外観品質 ² 1-9	整粒歩合 %
①前10延長	17	94	1.3	584	97	5.0	62
②前5後5延長	16	92	2.0	635	106	5.0	59
③慣行	7	101	2.3	600	100	6.0	60
④後10延長	17	92	1.7	617	103	4.5	63

² 1（1等上）～9（3等下、規格外）の9段階評価

中干し期間を17日間まで延長しても、
収量及び外観品質には、差はない！

開発のねらい

水稲栽培において、地球温暖化防止のため、メタンガス発生量抑制につながる中干し延長が求められています。そこで、J-クレジット制度※で承認された「水稲栽培における中干し期間の延長」（直近2か年以上の実施日より中干し期間を7日以上延長）に対応しつつ、収量、品質に影響を及ぼさない中干し期間の延長方法について明らかにしました。

※温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証し、取引を可能とする制度で、クレジットを販売することで収益が得られます。

新技術の概要

- 高温乾燥条件下で、中干し期間を17日間まで延長すると、慣行7日間の中干しに比べて、土壌の亀裂の幅は広く深くなり、幼穂形成期の草丈が低くなります。
- 中干しを延長すると慣行7日間の中干しに比べて稈長が短く、倒伏程度が小さくなります。また、収量及び外観品質には、差はありませんでした。

活用場面

「アケボノ」栽培において、中干し期間の延長による温室効果ガス排出量の削減ができます。